

中学校区におけるめざす子ども像

- ・正義のひと 善悪の判断ができる
- ・勇気のひと チャレンジできる
- ・行動のひと 自ら進んで動ける
- ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる

堺市立さつき野小学校

校長 佐古田 英樹

令和7年度 重点目標

## 専門職としての資質能力の向上 × “それぞの”ウェルビーイングの向上 ～子どもをみる 子どもから学ぶ 教職員どうしが学ぶ 保護者の学習参画～

## 確かな学びの現状

R5年度は4つの情報活用能力(問い合わせ力・情報を集める力・整理分析する力・まとめ表現する力)を育成する授業づくりで、全教職員が一人一回公開授業を行い、実践を蓄積した。成果としては、教職員は情報活用能力を意識して授業をすることができるようになった。一方、課題としては、児童が情報活用能力が身についたことを自覚できているのかという意見が、反省から出てきた。そこで、R6年度は、「自覚」をキーワードに、授業研究を進めていった。学校教育アンケートの結果を分析すると、児童は各教科と情報活用能力とのつながりを見出しつづくことがわかった。R7年度は、各教科における情報の特性をとらえて、児童が情報活用能力を発揮できるように、授業者が4つの情報活用能力を意識して授業実践をしていく。また、昨年度同様、小学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、各学年「数と計算」領域の習熟をはかり、年度末には検定テストを実施する。

## 豊かな心・健やかな体の現状

数年前から行っている食育への取り組みや、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は全学年合同で行い、中学生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上をめざしながら様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、小中の交流授業を行い、様々な学年と交流しながら学ぶ機会を設け、異学年との交流をする中で、多様な価値観に触れることができている。このように、小中一貫校の特徴を活かし、児童の豊かな心や健やかな体が育まれるように、活動の工夫をしている。

大項目	中項目	具体目標 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	具体的な取組 (評価のものさし)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方を働きかせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を意識した授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	学校教育アンケートで、88パーセントの教職員が肯定的回答をしている。		
			4つの情報活用能力がそれぞれ自分に身についたと思うか。	児童の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	すべての学年の児童生徒が4つの情報活用能力を意識しているかで、80パーセント以上の肯定的回答をしている。		
基礎的学力	基礎的学力	小学校6年間の各学年で、「数と計算」領域の検定テストを行い、四則計算の力を高める。	自主学習ノートで自分に合った学び方で取り組む	児童の肯定的回答90パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	平均すると肯定的回答が80パーセントを上回っている。ただし各学年で見ると、4～6年生は90パーセントを下回っている。		
			検定テストで、習熟をはかる。	検定テストの正答率90パーセント以上	検定テスト	年度末	年度末に評価します。		
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	物事を最後までやりきる成就感、達成感が得られるようにし、自己有用感を高める。	自己有用感にかかる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	年度末	給食当番、体活動、トイレのスリッパを捨てる、掃除、委員会などの活動を頑張っている子のアンケートで90%以上で、自分が他人の役に立っているという自己有用感を感じることができている。		
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」「大阪万博校外学習」「たてわり遊び」をはじめとする異学年交流を充実させ、自他の良さを認め合うことができるようにする。	異学年交流についての項目 肯定評価80%	学校教育アンケート	年度末	今年度より「さつき野トーク」をはじめとするたてわり活動を本格実施した。アンケート項目では95%と肯定的な意見が多くかった。小中一貫校ならではの特性や良さが少しずつ形になってきている。		
体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業に加え、学校全体の取組である体育行事や、外遊びなどを通して、運動が苦手な児童にも配慮しながら運動への意欲を高める。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末		アンケートではじめてわかる事象も多くあり、児童生徒とのコミュニケーションツールとして一翼を担っている。肯定的回答平均は9割を上回っている。		
			給食を通して食育を充実させ、児童が自らの健康について考える力を育成とともに、好き嫌いなく食べることを目標に食への興味関心が高まる取り組みを実施する。	「運動」にかかる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	全学年で90%を超えており、運動に親しむ素地ができる。しかし、100%ではないので、苦手な児童も運動に親しめるような授業づくり等に取り組む。		
地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	学校アンケート結果では「食」に関する項目で90%だが、給食を好き嫌いなく食べることに関しては90%を下回っている。さらなる取り組みが必要である。		

--	--